

# 自然教育・野外教育推進事業

【学びの改革支援課】

## 1 必要性・独自性

【基本方針活用事業より】

- ・本県の強みである豊かな自然の特性を生かし、子どもたちの「自然を通して生き抜く力」「自然を大切にすむ心」を育むため、県内の自然教育、野外教育における本県ならではのプログラムの研究・開発及び普及とそれを実践できる人材育成が必要。

## 2 目指す成果・成果目標

【基本方針活用事業より】

- ・モデル的に自然教育プログラムを実施する学校30校／5年間  
(小学校、中学校、高校から10校ずつモデル的に選定)

【取組により期待される効果】

- ・自然体験を取り入れた学びの広がり
- ・外部指導者と学校の更なる連携強化
- ・学校教育における学校林利活用の促進

## 3 事業の概要

- ・県教育委員会の作成した「自然教育・野外教育プログラム」を実施するプログラム推進校を毎年8校程度ずつ募り、その実践からフィードバックを得てプログラムの効果の検証、プログラムの修正等を行う。
- ・プログラム推進校でプログラムを実施する外部指導者の派遣に係る費用を支援する。
- ・プログラム推進校の取組事例を発信し、自然体験を取り入れた学びを広げる。
- ・学校が外部指導者と連携をし、自然体験を取り入れた学びを充実させていく仕組みづくりを進める。

予算額:千円


事業内容	事業主体	R3年度 事業計画及び目標	補助率	予算額	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム実践(プログラム推進校への外部指導者の派遣)</li> <li>・プログラムの評価・検証・改善</li> <li>・外部指導者リストの作成</li> </ul>	県教育委員会	モデル校及びプログラム推進校における実践	7校	-	1,792

## 4 見える化に向けた取組、取組の継続性、他地域への波及効果等

### 【見える化に向けた取組、他地域への波及効果】

- ・プログラム推進校の取組事例を発信し、自然体験を取り入れた学びを広げる。
- ・「自然教育・野外教育プログラム」をまとめたプログラム集を公開する。

《事業実施例》

R2年度の実践事例	【プログラム実践校による学校行事型プログラムの実践】	<プログラム(一部抜粋)>
<p><b>実践校: 坂城町立坂城小学校</b>                      コロナ禍の影響により、5年生が予定していたキャンプが中止になったため、学校に指導者を招いて、アクティビティーを行い、仲間づくりや問題解決能力の育成を目指すプログラムを計画し、実践した。</p> 	<p>取組をプログラムとしてまとめる。</p>	<p><b>対象学年</b> 5学年  <b>教科等</b> 総合的な学習の時間  <b>提案プログラム</b> 学校で行う日帰りアウトドア教室</p> <p><b>【事前学習】</b>                      「サバイバル火おこし調べ実験」                      家庭で調べ、保護者と一緒に実験</p> <p><b>【アウトドア教室当日】</b>                      「課題解決ゲーム」                      ゲームを通して会話が生まれ、集団達成を体験                      「火起こしで湯を沸かそう」                      班で調べた方法で湯を沸かし、集団達成を体験                      「ボンファイヤー」                      たき火サイズの火を囲み、夜のレクリエーションを体験</p>
<p>インストラクターのリードのもと、チームで課題解決に取り組む。自然と声を掛け合い、認め合う姿が生まれる。</p>	<p>学校の敷地内で、半日開催。外部指導者を活用し、非日常を創出した新しい学校行事の在り方を構築。</p>	